

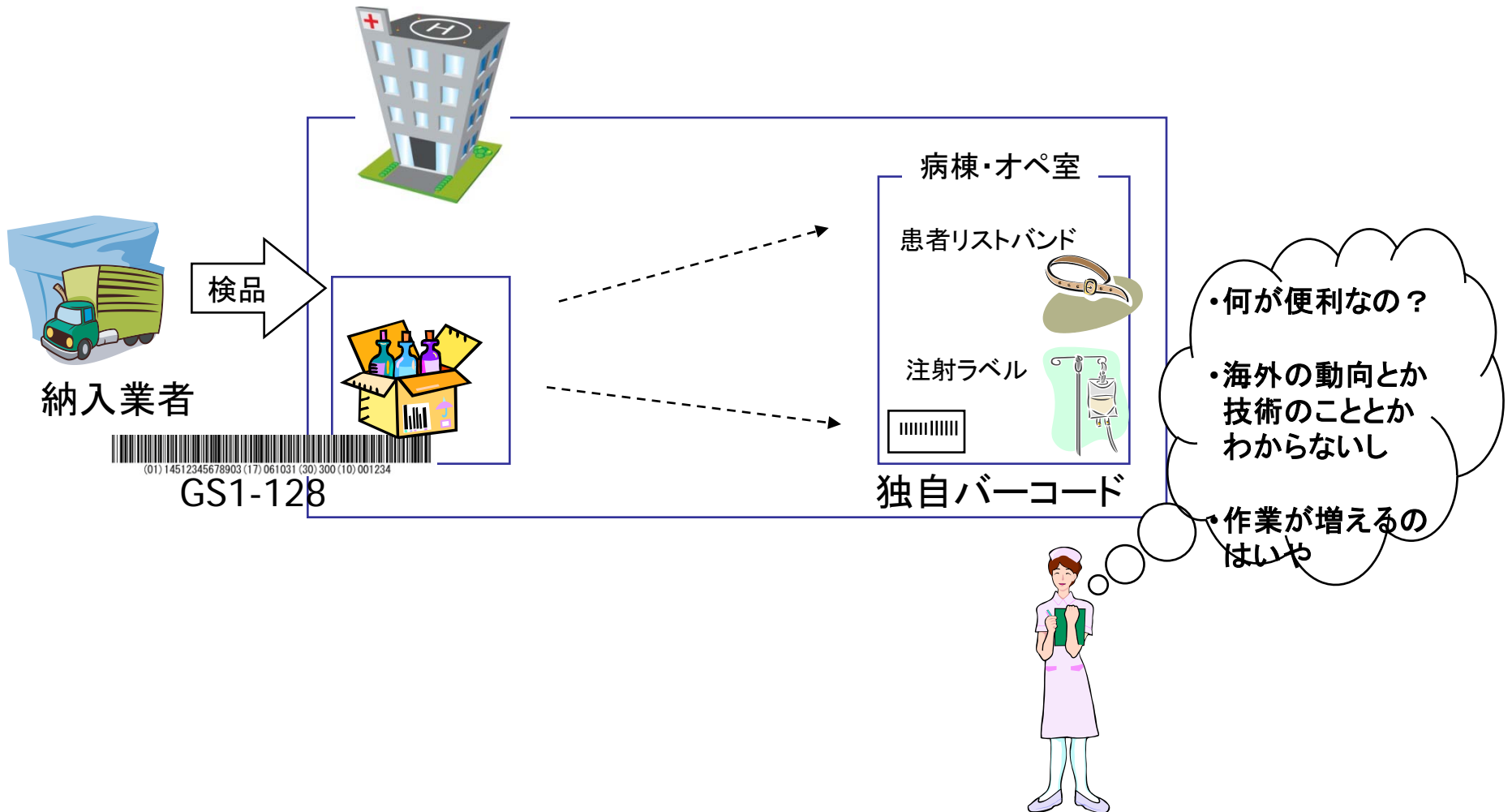


High performance. Delivered.

医療安全の徹底的追求のための バーコード活用と情報システムについて

平成21年10月1日(木)

医療機関における現状のバーコード利用シーンは極めて限定的



バーコードが医療機関に普及するか

- ・このままでは普及しません。
- ・手間がかかるだけで役に立たないからです。
- ・原価計算やコスト削減目的をうたうことのみで、バーコード運用が徹底できるでしょうか。

バーコード普及の最大の障壁

唯一 医療従事者がバーコードを使用する病棟の注射の場面はPDAの、いわゆる‘3点確認’。

医療安全上、全く意味がありません。

- 自分自身と、患者さん、モノ(薬剤)の確認のみ。
- 最大の問題 — 表示は○(OK)なのに、実際は×(NG)のことがある。
- なので、PDAが○でも看護師は、結局、ラベルチェック(指差し確認)する。負荷は全く減らない。

そんなシステム・仕組みが必要でしょうか。

5R vs 3点確認

医療行為実施時点において医療行為の5つの的確さ（5 Rights）が確認されるべき。

- 1. **正しい患者** (Right Patient)
- 2. **正しい薬剤** (Right Drug)
- 3. **正しい分量** (Right Dose)
- 4. **正しい経路** (Right Route)
- 5. **正しい時間** (Right Time)

すべて○であるべき

3点確認では

○ (宅配便のお届け印と同じ)

△ (薬品種の確認のみ。その個品は安全なのか??)

できない

できない

できない

ソリューションスキームとして誤っている。